

京染会館

Kyozomekaikan

No. 03-013-2010作成

新築
事務所／物販

発注者	財団法人 京染会	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 大林組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

伝統・歴史を継承した長寿命建築

「染のまち」に建つ きもの文化の拠点

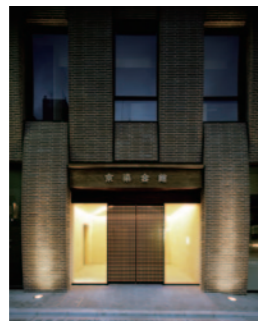
明治21年より、伝統的な工芸美術の妙技を伝承発展させてきた「京染会」の拠点となる本建物は「染の中心地」である四条西洞院で建て替えられた。一枚一枚、色やテクスチャが異なるボーダータイルを打込んだ曲面PC版を、千鳥配置した外観は光と影により様々な表情を見せ、「染と織」の雰囲気醸し出している。伝統的な職人の技が一つ一つ積み重ねられ、現代の高度な施工技術とともに実現した本物志向の建築は京染会の歴史を表現しつつ、時代とともに醸成し続ける長寿命デザインを目指している。彫の深い単窓の外装や屋上庭園などにより事務所部分におけるPAL値削減率が30%以上達成している。さらに曲面PC版への雨垂れを抑制した水切り形状にも特徴がある。千鳥配置のPC版が重なり合う部分に設けられた底目スリットに水が流れ落ちるように折り曲げた水切によりメンテナンス性を向上させている。



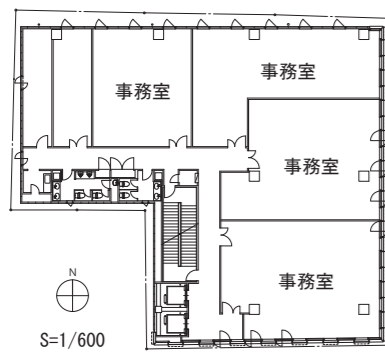
外観全景



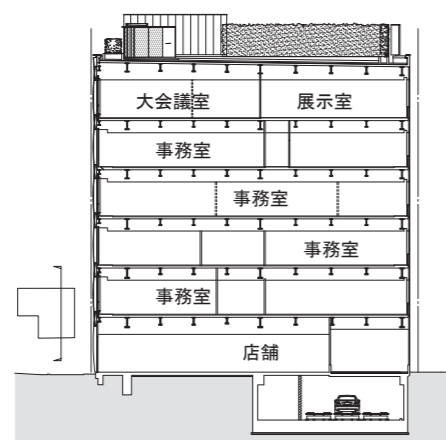
外観見上げ



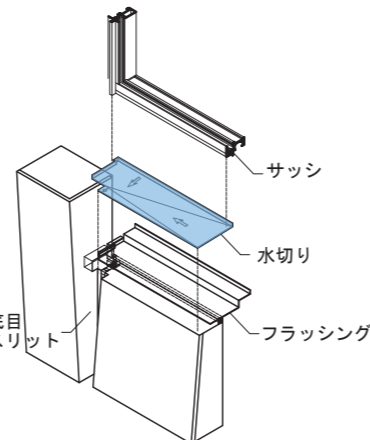
エントランス



4階平面図



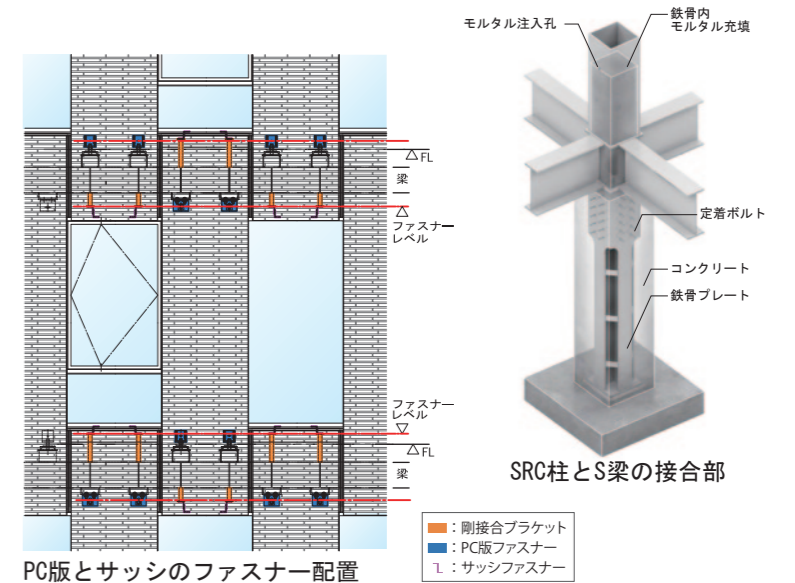
断面図



水切り部ディテール

地震に強い千鳥配置の外壁PC版

地下RC造と地上S造の構造的連続性と剛性を確保するために1階柱をSRCとし、柱と梁の接合部の納まりを工夫している。互いに重なりのある千鳥配置の曲面PC版は、大地震時に想定される層間変形角1/75でも損傷のないように設計している。サッシのファスナーについても梁から持ち出した剛接合ブラケットで支持させ、PC版ファスナーとの支持点レベルを合わせている。これによりサッシとPC版の相対変位を最小限にすることができ、層間変位への追従性能を高め、特殊形状の水切りの納まりも可能とした。

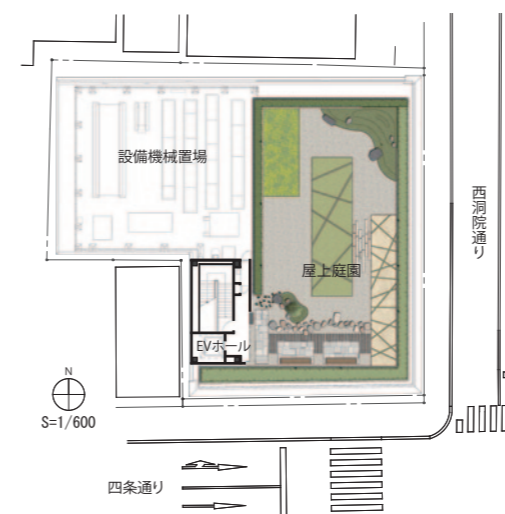


SRC柱とS梁の接合部

PC版とサッシのファスナー配置

京都の地元産の石材による屋上庭園

屋上には、色鮮やかに染められた反物が静かに水面にたなびく様子をモチーフに四季折々に趣きのある「京染の庭」を創出している。京染会田畑理事長の邸宅や旧京染会館から受け継いだ伝統的な地元の庭園素材（飛石・景石・灯籠）を、無垢のまま再構築することで、長い年月を経た素材の風合いが趣き深い庭の表情をつくりだしている。素材に蓄積された時間と風情を受け継ぎ、この場を訪れる人たちとともに新たな風景として、京染会の歴史を次代に繋ぐことを試みている。



京染の庭



旧京染会館の花崗石ボーダー



理事長邸からの景石搬出

旧京染会館の建築材料の再利用

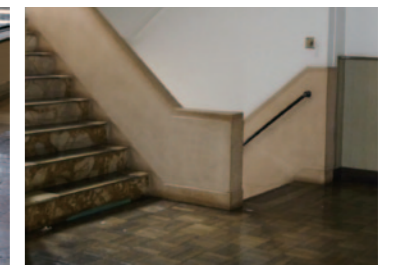
昭和12年竣工の旧京染会館の会議室、EVホール、事務室等ほとんどの部屋の床に使用されていた無垢のナラ材のフローリングや、階段の蹴込や踏面の大理石は6階の大会議室の床と巾木として再利用し、外構で使用されていた花崗石も屋上京染の庭で再利用している。

設計担当者

統括：近井 務／建築：荒井庸行／構造：田中達彦、平野浩二、住脇崇義／設備：古閑幸雄、小野由猛、高田裕子、秋田真範

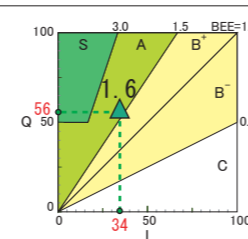


再利用されたフローリングと大理石巾木



旧京染会館のEVホール

建物データ	所在地	京都市中京区西洞院通四条上る蟻螂山町481	省エネルギー性能	PAL削減	23 %	CASBEE評価	Aランク
竣工年	竣工年	2010年	ERR (CASBEE準拠)	16 %	BEE=1.6	BEE=1.6	
敷地面積	敷地面積	683㎡	LCCO ₂ 削減	18 %	2008年度版自己評価		
延床面積	延床面積	3,825㎡					
構造	構造	S造一部SRC造					
階数	階数	地下1階、地上6階					



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (屋上庭園周辺緑地をつなぐ)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (歴史性の継承、染のまち、きもの文化のシンボル)
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制 (PAL性能向上、彫の深い、単窓外装)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型便器、雨水利用)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (電炉鋼、再生砕石の採用)
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮 (LCCO₂削減、旧建物の建築材料の再生利用)